

## 平成 29 年度 第 2 回学校協議会議事録

○開催日時 平成 29 年 1 月 28 日(火) 13 時 20 分～15 時 30 分

○開催場所 池田高等学校校長室

○出席者 【協議会委員】

桑畑進(大阪大学大学院工学研究科教授)、萬川幹夫(本校同窓会会長)、鍋島浩(本校後援会会長)、松浦周介(旭丘自治会) 近藤博道(本校 P T A 会長)

【事務局(教職員)】

校長、教頭、深江首席、森首席、榎本進路指導主任 (計 10 名)

○授業見学 1 年：情報(アクティブラーニング(以下 AL と記載)) 2 年：数学 B(演習) 古典 B(AL)

○議事進行 教頭の司会により学校協議会開催。校長の挨拶の後、出席者の紹介及び資料説明を行い、その後、桑畑委員を議長として協議事項に移る。

○協議事項

### 1. 学校経営計画の進捗状況(校長より説明)

#### I 授業改善について

- ・授業アンケート(「授業をうけて知識技能が身についたと感じている」)で 3 ポイント以上の高評価の教員比率が、昨年に続き 76%と高水準で推移。
- ・授業評価アンケートの内容を校長の判断で改訂。特に「先生は、生徒が考えたり、考えを述べたり生徒同士で学び合ったりする時間を授業に取り入れている」という質問を入れた結果、「知識技能が身についた」というアンケート質問との間に肯定率の強い相関があり、池高型 AL を支える実証データになった。
- ・大学教授による教員向け研修を今年度 3 回予定(既に 2 回実施済み)。又、外部機関が実施する授業力向上研修に 5 名の教員が参加。
- ・アウトプット型の授業推進。(例：ディベートを授業に導入(情報・保健・美術)。大阪成蹊大学教授の協力で「アイデアの作り方」講座を新規開催。1 年生の総合学習でビブリオバトル新規実施。英語スピーチコンテスト継続実施。)
- ・池高型 AL が対外的に評価され、2 団体(愛媛教育委員会及び都立高校)が本校の授業視察に来校。

#### II. 主体性、自主自律の確立

- ・「自主自律」推進施策を各分掌・学年中心に企画。(例：オープンスクールを自治会生徒主体の運営に変更。図書委員生徒による学校図書を選定・購入。集会の整列を生徒自身が自主的に実施)
- ・生徒が主体性に生活する基盤として、朝読書が定着しつつある。
- ・主体性が部活で鍛えられ、成果に繋がる例が増加。(野球部が 21 世紀杯大阪代表に選出)

#### III. 自学自習の確立

- ・本年度初めて夏期自学自習合宿(2泊3日)実施。
- ・1 年生対象に「勉強の仕方」講演会を関西大学教授により実施。総合学習で「学び方」を考えさせる取り組み実施。
- ・期初の生徒向け学習オリエンテーション(学習の仕方を含めたシラバスの説明)継続実施。
- ・二兎を追え週間(テスト 2 週間前は 19:30 まで HR 教室で自習)の定着。
- ・卒業生チューターの一層の活用(保護者向け講演会、自学自習合宿付き添い)。

○質疑応答・意見交換

(委員) 「二兎を追え週間」は「文武両道」を具体的アクションに落とし込んだ良い企画である。外部研修に参加する先生はどのように選ぶのか。

(学校) 自主的に希望する教員が受講している。比較的経験年数が少ない若手を中心である。

(委員) 自学自習合宿には何名参加したのか。参加した生徒の様子はどうかであったか。

(学校) 参加者は1年6名 2年4名 3年5名の計15名。今年度は試行的に夏休み中に実施したため部活合宿とも重なり、参加者は限られた。今後は春休み中の実施を検討。参加した生徒は大変真摯に学習に取り組み、アンケート結果を見ても、高い満足度を示している。

(委員) 学校施設を利用して自学自習合宿を実施できないか。

(学校) 部活の合宿と同様、日常から隔離されて一つの事に集中する環境設定に意味がある。

(委員) 学校を離れて実施することの意味は十分理解するが、承風ホールなどを利用した1泊2日程度のミニ合宿を併行して実施できないか。

(学校) 検討する。

(委員) 自学自習合宿に参加した生徒の成績の伸びや意識の変化について追跡調査できないか。

(学校) 成績の伸びは比較対象の取り方が難しいが、意識調査も含め、今後検討する。

(委員) 2泊3日の期間だけ30時間勉強しても、効果は限界的ではないか？ 1年は勉強の仕方、2年はこれまでの復習、3年は受験に向けての取り組みにする等、学年別を実施する方が、教員の負担は増えてしまうが、効果が上がるのではないか？

(委員) 参加した生徒が合宿に意味があったと答えていれば、それだけで評価すべき十分な成果であり、更にあれこれ注文をつけて、新しい試みの芽を摘まないほうが良い。

(委員) チュータ制度のチューターはどう選び、どの程度利用されているのか。

(学校) 担任からの推薦をもとに、本校への協力姿勢を確認して選抜している。定期考査が近づくと頻繁に活用されるが、普段の期間は、まだ利用回数が少ない点が課題である。

(委員) 考査前などに重点的に配置できないのか。また、保険制度に加入しているのか。

(学校) 「二兎を追え週間」で対応している。保険制度については検討する。

(委員) (本日見学した授業内容について複数意見あり)

(校長) ご指摘いただいた意見については、校長より授業を担当した教員に伝える。

(委員) 授業中に教員と生徒が、授業の内容について自然に会話している授業スタイルは素晴らしい。

(学校) 教員が相応の時間をかけて、生徒とのやりとりの中で確立したALの授業スタイルである。

(委員) 中学の学習内容について中高連携はどのように行われているのか。

(学校) 生徒に関する情報交換という意味で、中高連絡会があるが、中学の学習内容については、同じ教科でも中学によって教えている内容はバラバラで、連携は取りきれない。

(委員) 授業時間は50分だが、短くないか？

(学校) 多くの府立学校が50分授業であり、教員に違和感はない。65分授業を実施して、また50分に戻す高校も増えてきたと聞いている。

(委員) 老朽化した教室の壁が汚い。生徒に年度末にペンキ塗りをさせればよいのではないか。

(学校) 検討する。

(委員) 最近本校生徒に地域(呉羽の里)の落ち葉清掃に協力してもらった。楽しそうに、前向きに清掃する池高生の姿に感動した。生徒たちに感謝する。

以上